

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月10日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870900259		
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院		
事業所名	グループホーム どんぐり		
所在地	四国中央市中之庄町393-1 (電話) 0896-24-4168		
管理者	栗 育子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月10日

### 【情報提供票より】 (平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	33 人	常勤	21人, 非常勤 12人, 常勤換算 22.4人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		
(3) 利用者の概要 (平成20年6月1日現在)			
利用者人数	26 名	男性 7 名	女性 19 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名
要介護3	10 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.4 歳	最低 76 歳	最高 100 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 あり・(なし)	医療連携体制加算		

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所では、3ユニットの交流を大切にされており、職員、利用者ともユニット間で行き来されている。職員は、法人施設全体で異動もあるが、利用者が法人内の施設に移る場合、顔馴染みの職員がいることが安心感となっている。  
 利用者は、大正琴を職員と練習されている。管理者は、大正琴の練習がリハビリになっていると話しておられた。又、俳句を新聞に投稿されている方や調査訪問時には、詩吟を謡って聞かせて下さった方もおられた。  
 誕生日には、ご本人からの希望をかなえる取り組みをされており、外出等を支援されている。

### 【質向上への取組状況】

#### 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

・前回の評価結果を受けて改善計画書を作成し、取り組まれている。管理者は、職員が利用者のお話をじっくり聞こうとする姿勢がうかがえるようになった、との成果を話されていた。

#### 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

・管理者やユニットのリーダーの方達で話し合い自己評価を作成し、職員は、評価内容を確認された。自己評価作成時、事業所では、地域との交流の大切さに気付かれた。

#### 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)

・会議では、事業所の活動について報告をされたり、利用者個々の希望等を紹介して、出席いただいた方々からご意見をいただいている。

#### 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)

・ご家族には、来訪時や電話等で意見を出していただけるよう働きかけておられる。ご家族から感謝の声も多くいただいている。

#### 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

・夏祭り等、公民館活動に参加されたり、小学生の訪問があり、肩たたきをしてもらう等、利用者との交流をされた。

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームどんぐり

(ユニット名) 1階(檜)

記入者(管理者)  
氏名 栗 育子

評価完了日 平成 20 年 5 月 27 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念としてあげている。		グループホームどんぐりとしての理念「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を掲げ、各フロアにパネルをかけている。
			(外部評価)		
			開設時に作成した理念に沿って、「楽しい暮らし」を目指して取り組まれている。		さらに、事業所では、利用者それぞれの「自分らしく」を探り、地域密着型サービス事業所として目指すことを検討していきたいと話しておられた。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			日々業務の中に、スタッフ間で理念を確認しあう場を設けている。		どんぐりの理念を確認し、意識を深めそれに基づきケアを行っている。月間目標と週間目標を掲げ業務に取り組んでいる。
			(外部評価)		
			理念を共用空間に掲示し、職員間で共有されている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			運営推進会議時に事業所の理念を説明し理解している。また、ご利用家族にも入居時にはパンフレット等にて運営規定を理念などを分かりやすく説明している。		どんぐり便りなどにも、理念・運営方針などについて取り入れてみたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 玄関やホーム周囲に花を植えたり、ベンチやブランコを設置しており、近所の子供たちもよく遊びに来たりする。		ホームの周囲に花を育てたり、ベンチの設置をし、絶えず立ち寄り易い雰囲気作りを心がけている
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の祭り際には、御輿や太鼓台などに立ち寄りしてもらったり、小学生のボランティア活動の場にもなっている。また、幼稚園児のお遊戯会も開いてもらっている。 (外部評価) 夏祭り等、公民館活動に参加されたり、小学生の訪問があり、肩たたきをしてもらう等、利用者と交流をされた。		地域の文化祭に作品を出展したり、夏の盆踊りへ参加しており、今後も続けていきたい。 今後、地域の婦人会の方達がボランティアに来てくれることとなっている。さらに、利用者が地域の中で生活を広げていけるよう、地域の方達との交流を深めていかれることが期待される。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 定期的にIADL教室を開催し、地域の高齢者の方とのふれあいの場を提供している。		IADL教室において、快適な生活のヒントや手芸などのレクリエーションに参加してもらい、地域の高齢者にも暮らしに役立つ情報を提供している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者、管理者、職員は常に運営理念を意識し、入居者の生活がより良い状態で過ごせるように考えている。 (外部評価) 管理者やユニットのリーダーの方達で話し合い自己評価を作成し、事業所では、地域との交流の大切さに気付かれた。前回の評価結果を受けて改善計画書を作成し、取り組まれている。管理者は、職員が利用者のお話をゆっくり聞こうとする姿勢がうかがえるようになった、との成果を話されていた。		外部評価後、指摘頂いた事に対し、全職員と話しをする場を設け各項目に対し、改善の方針を立て実践している。 さらなる貴事業所の質の向上に向けて、自己・外部評価や家族アンケート結果を活用した取り組みが期待される。運営推進会議で活用されたり、便り等を通じてご家族にも報告し、ご意見をいただいております。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			運営推進会議では、問題があれば議題として相談したり、評価を受け、サービスの向上に生かしている。		運営推進会議においていただいた意見をスタッフミーティングで検討する機会を設けている。
			(外部評価)		
			会議では、事業所の活動について報告をされたり、利用者個々の希望等を紹介して、出席いただいた方々からご意見をいただいている。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			ふれあい相談員の方が訪問時に、積極的に話しあったり情報交換をしている。		ふれあい相談員の方との情報交換だけではなく、こちらからも市町村に行く機会を設けたい。
			(外部評価)		
			ふれあい相談員の方の訪問を受けて、利用者個々の暮らしぶりについて意見交換をされている。		市の方達にもさらに、グループホームの意義や有用性を理解していただけるよう、事業所から積極的に働きかけていかれることが期待される。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			現在、成年後見制度の必要性がある方がいらしゃらない事もあり、十分に話し合う機会が持てていない。		今後後見人制度の研修会にも参加する機会を設けたり、職員間で学ぶ場を設けたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			法人の施設合同で勉強会を開催して、高齢者虐待防止関連法など講習し、意識を深め防止に努めている。		職員間でさらに理解を深められるように事業所外研修にも参加する機会を作りたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) グループホーム入居時の説明をするときには、パンフレット、書類などで詳しく説明している。		入居を希望されている方に実際にホームを見学して頂いたり、本人やご家族の方と面談の場を設けている。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム玄関・各階に苦情箱（鍵がかかるもの）を設置している苦情、意見があればいつでも投函出来るようにしている。また、いつでも苦情、不満があれば管理者や職員が口頭で伺うようにしている。		利用者からの苦情、不満があった場合、内容をよく聞いて運営推進会議などに意見を求め、より良い運営が出来るようにしている。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的にどんぐり便りを発行し、ホームでの生活、行事が分かるよう、入居者の家族に郵送している。		入居者方が誕生日の時に、一年間の行事や生活の中で撮った写真を一冊にまとめご家族に郵送している。
			(外部評価) ご家族の来訪時、ご本人の健康状態や暮らしぶりについて報告されている。又、便りで新人職員の紹介等もされている。		事業所では、今後、「どんぐり便り」の内容の充実を検討されている。さらに、事業所の取り組みの報告や、利用者の日々の暮らしぶり等も伝えていくような内容等も考えておられた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム玄関・各階に苦情箱（鍵がかかるもの）を設置している苦情、意見があればいつでも投函出来るようにしている。また、いつでも苦情、不満があれば管理者や職員が口頭で伺うようにし、積極的に改善したり反映している。		ご家族の来館時に、ご不満やご意見がないかこちらから声をかけて意見をいただけるように心がけている。遠方のご家族には、電話や手紙（どんぐり便り）を利用し意見をいただいている。
			(外部評価) ご家族には、来訪時や電話等で意見を出していただけるよう働きかけておられる。ご家族から感謝の声も多くいただいている。		「迷惑をかけていないだろうか」と言われるご家族の心情を踏まえて、さらに、意見や要望を引き出せるような工夫を重ねていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的なカンファレンスを行い意見を聞いている。		意見や問題点があがる際、いつでも意見を述べられるような雰囲気作りや人間関係の構築に努める。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の日々の生活に合わせた勤務表で勤務している。		経営者も現場によく顔を出し、状況を良く理解してくれており柔軟に勤務体制を作ってくれている。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動があっても、利用者の方に影響が起きないように勤務体制をとり、馴染みの職員が退職する際などの寂しさを他の職員がカバーし、新しい職員となるべく早く馴染めるように努めている。 欠員が出た際は、迅速に人員補充を行っている。		ダメージを防げる様に、職員で統一したケアを行い、新しい職員にも早くなれるように努力してもらい、他の職員もカバーをしている。
			(外部評価) 事業所では、3ユニットの交流を大切にされており、職員、利用者ともユニット間で行き来されている。職員は、法人施設全体で異動もあるが、利用者が法人内の施設に移る場合、顔馴染みの職員がいることが安心感となっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月の施設勉強会や、定期的な法人全体の勉強会に参加したり、外部の研修を取り入れるよう計画しており順次職員を参加させる予定。		職員の段階に応じ職員研修に取り組んでいる。
			(外部評価) 法人内で勉強する機会が作られており、最近では、季節から感染症についての知識を深められ、職員・利用者ともに手洗いを励行されている。又、職員は、レクレーションの勉強等もされている。		さらに、職員チームで利用者主体の生活を支援するためにも、認知症の勉強やケアサービスについて、すべての職員でスキルアップできるよう取り組み、事業所のさらなる質の向上を目指していかれてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			他事業者との交流は今のところ殆どない。		他事業所との交流の機会があるか検討している。
			(外部評価)		
			外部研修等で他事業所とともに勉強をされている。		今後、事業所同士が行う相互評価事業にも参加する予定となっている。さらに、今後は、市内の他事業所とのネットワーク作り等にも積極的に取組まれ、地域の認知症ケアの向上にも貢献していかれることが期待される。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			法人の運営している保養施設などの利用をすすめている。 ストレス解消法などの研修にも参加している。		定期的に管理者を交え、親睦会等を企画している。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			勤務状況は把握し、勤務設定に反映しておりその後の実績として反映している。		賞与を支給する際、職員の良く努力している所、実績などについて、話し合いをする機会を持ち、出来るだけ向上心を持ちながら仕事ができる様に努めている。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			相談に来られた段階で、利用者本人の不安等をよく聞き、十分な説明をした上で、不安無く過ごせる様な関係を作っている。		今後も今以上に利用者との信頼関係が強くなれる様に努力していきたい。



自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談に来られた段階で、家族の不安等をよく聞き、十分な説明をした上で、不安無く過ごせる様な関係を作っている。		ご家族のみの意見によらず、居宅担当ケアマネジャーとのより密接に情報交換が出来るように努める。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容が分かりやすく説明している。		事業所として出来ること・出来ないことを明確にして、必要な援助は何か？どのように他のサービス利用に引き継ぐか等も今後の勉強会の題材として取り入れて行く。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご家族に協力していただき、本人が馴染めるまで、家族の訪問を頻回にさせていただいたり、電話などでお話ししていただくなどお願いしたり職員の入室回数を増やしたり、他者と馴染めるよう間に入るなどのサポートを行っている。		利用される方に対し、職員全員で理解を深め、レクリエーション等に参加してもらう事でどんぐりへ早く馴染めるように努力している。
			(外部評価) 職員は、利用者が入居間もない頃は特に、ご本人を気にかけて、かわりを多く持つようにされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者の得意なことや、昔からしていた事などを一緒に楽しんだり職員が教えていただいたりしながら、家族のような関係を築いている。		様々なレクリエーションや作業を通じ、入居者と共に練習する機会を設けている。
			(外部評価) 職員は、利用者とともに大正琴を練習されている。又、利用者に詩吟を聞かせていただいたり、地域の歴史について教えてもらうこともある。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 可能な限り通院介助や、洗濯をお願いすることで、本人との繋がりを保っている。また、年間行事がある際には家族の参加も呼びかけている。		年間行事のみならず、職員と家族が話し合える機会を出るだけ作り、自宅においても困っている事や悩み事を共有出来るようにより良い関係を作っていきたい。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ホーム内での出来事や状況ををご家族に連絡し、安心してホームで暮らしている事を把握してもらっている。		利用者および利用者家族の、悩みや家族関係などの情報も職員が十分理解し、職員間で共通理解をもてるよう努めたい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の知人、友達が訪問された時は快く歓迎し、また訪ねてくださる事をお願いしている。		出来るだけ本人の習慣や馴染みを大切に出来るよう、情報収集にも努めたい。また、希望があれば同行出来るような機会も持ちたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を職員が理解し、間に入るなどのサポートをしながら良い関係作りが出来るように努めている。利用者間での関わりに変化があれば、職員間情報を共有し合い常に和やかな雰囲気でも過ごせるように努めている。		原則ユニットとして生活を送ってもらっているが、食事や行事、レクリエーション時には他のユニット利用者ともコミュニケーションが取れるように努めている。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 同一法人の運営する、医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供することにより、総合的にサポートする環境を整え、退居後の支援も怠りの無い様に努めている。		年間行事には参加していただける様であれば、参加してもらえる様に招待し、参加していただいている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ケアマネや計画作成担当者を初め職員が本人の意志や意向を聴き、カンファレンスなどの場で報告し把握するようにしている。		本人の意志や意見を把握し、対応出来る限り対応し、対応できない場合には家族の援助を受けれるような、家族との関係をより構築していきたい。
			(外部評価)		
			職員は、利用者とのかかわりやご家族とのお話しの中から、ご本人の思い等の把握に努めておられる。		さらに、利用者個々が「自分らしく過ごす」ためにもアセスメントの充実が期待される。アセスメントを介護計画に十分反映し、利用者の楽しい暮らしを支援していかれてほしい。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居者本人の生活や生き方等を本人やご家族から聞き取り、それを職員全員が把握し、その人らしい生き方を尊重するよう努めている。		入居者本人との会話の中で、生活歴や暮らしについて聞き出せるような努力や、更なる信頼関係を構築したい。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			本人の毎日の健康状態をよく観察し把握しておき、ホームの毎日の生活スケジュールの中でその人のペースに合うように過ごしていただいている。		日々の生活の中で、申し送りやミーティングを利用して、利用者本人の状態を職員全員で把握するように努めている。
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			カンファレンスの場に、毎回家族や関係者などの参加が難しいが、事前に集めた情報によりカンファレンスに活かすようにし、介護計画に取り入れている。		毎回家族、関係者などの参加は難しいので、事前に家族や関係者などの意見をいただけるように努めていきたい。
			(外部評価)		
			ご家族から得た情報も採り入れながら、計画を作成されている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			対応出来ない変化が生じた場合には、併設病院や施設、管理者、家族などと相談し、本人に最適なサービスについて提供している。		ホーム内での意見にとどまらず、外部の意見も取り入れて対応していきたい。
			(外部評価)		
			介護計画は、定期的な見直しと随時の見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			日々の記録は出来るだけ頻回に記録し、状況を細かく記載するように心がけている。職員は全ユニットを通してパソコン上で情報を取り入れる事が出来るようにしている。		訪室、会話などにより、より細かい利用者への観察力がつくようにつとめて行きたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			法人所有の施設（リハビリ機器、入浴装置、福祉車両など）を、その時の利用者等の状況や要望に合わせて柔軟に他部署と連携しながら支援している。		法人外の他事業所とも、良い関係を構築し共有でお互いの利用者の利便性が向上できるように検討していきたい。
			(外部評価)		
			事業所には、公衆電話が設置されており、利用者がご家族に電話をされることもある。又、入浴やリハビリ等、隣接施設と交流をされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関とは連携を取り、ホーム内の問題点や要望に対し、気軽に協力出来る関係を構築出来ており、支援を依頼している。		今度も同様に引き続き支援して頂けるように努めていきたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業所職員との話し合い機会が持てているとは言い難い。		出来るだけ、他事業所とも連携が持てるように検討していきたい。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター職員の訪問時など、適切なアドバイスを頂いている。		今後も長期的な支援についても意見交換をしていきたい。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しており、いつでも対応できるようになっている。また、本人希望の眼科、歯科などはいつでも受診できるよう支援している。 (外部評価) 利用者は、入居前から母体病院にかかっていた方が多くおられる。		出来るだけ、以前のかかりつけ医との関係も切れないう意識しながら対応していきたい。
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設病院には専門医がおらず、専門医の受診支援は不十分である。		理事長を通じ、相談にのってもらえる認知症専門医を紹介してもらえないか検討していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しており、いつでも対応出来るようになっている。また、病院の医師、看護師に報告し、入居者の健康管理をしている。		今度も同様に医師、看護師の支援を継続していきたい。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 法人内医療機関との連携は十分にとれている。法人医療機関での対応しきれない場合も、他医療機関と連携はとれている。		今後も同様に、法人内医療機関、他医療機関との連携を継続していきたい。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の利用者との関係を鑑み、終末期の対応は併設病院並びに併設施設にて対応することにしている。重度化した際は本人・家族・医師・ケアマネージャなどと話し合いの機会を持ち決定している。 (外部評価) 重度化等、事業所での生活がむずかしくなったと判断された場合には、ご家族と話し合い法人内の施設・病院に移ることとなり、ご家族にも納得をいただいている。利用者が他施設に移った場合、職員や他利用者が時々、会いに行かれている。		現在の所、利用者及び利用者家族の中には終末期において当グループホームより併設医療機関での対応を望まれている方しかいないが、今後対応を望まれる方が出てきた場合には対応していけるように考えている。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化・終末期への対応は、同一法人内の他の医療・介護サービスにて対応することとし、利用者及び利用者の家族には安心していただいている。事業所として出来る事・出来ない事はケアカンファレンスなどに、法人医師・理事にも出来るだけ参加してもらいチームとして支援している。		現在の所、利用者及び利用者家族の中には終末期において当グループホームより併設医療機関での対応を望まれている方しかいないが、今後対応を望まれる方が出てきた場合には対応していけるよう、職員のレベルアップを図り取り組んでいきたいと考えている。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 法人内の申し送りはもちろん、他の保険者への転居の際も情報交換や保険手続きについての指導も行い、スムーズに利用者が新しい環境に適応できるように努めている		今後もスムーズに対応出来るように情報交換を十分にしていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>					
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>					
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価)</p> <p>プライバシーは損ねることなく尊重している。</p>		<p>今後も各職員が、より注意して対応していけるように職員間で話し合いの場を持ち、支援していきたい。</p>
<p>(外部評価)</p>					
<p>管理者は、利用者個々の体調等を観察しながら、利用者 に接することを指導しておられる。</p> <p>さらに、事業所では、利用者への対応について適切になされているかということについて、話し合いたいと考えておられる。ともに、ケアの質向上に向けて、すべての職員で話し合われる機会とされてほしい。</p>					
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人が事態を把握して納得できるよう、何事もよく説明したり理解して貰えるような支援をしている。</p>		<p>各職員が説明能力が向上していくよう努めたい。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の健康状態を把握し、どんぐりの一日の生活スケジュールに沿って規則正しい生活をしていただき、なおかつその方の健康状態に応じてその方に合うように過ごしていただいている。</p>		<p>個々の利用者のペースは大切にしなければならないが、本当にそうすることが利用者にとって良いことなのかどうか考える機会を作っていきたい。</p>
<p>(外部評価)</p>					
<p>利用者個々の居室に、リハビリや入浴のスケジュールを掲示されていた。</p> <p>さらに、この機会を利用者個々が望む暮らしについて、意向を聞き取る機会とされてほしい。</p>					

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時や入浴時の衣類は自分で決めていただける様な声掛けを行ったり、季節に合わせた服を選ぶようにスタッフがアドバイスすることもある。美容院、散髪は行きつけの所に自由に行ったり、地元的美容院が出張してくれるのでそこを利用している。		外出の際に、職員と一緒にメイクアップをしたり、いつも以上におしゃれな服を選んで外出したりしている。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 給食委員会を定期的に関いたり、職員間で意見を出し合い、入居者の好みや季節の献立を考えている。また、材料の下ごしらえや調理も入居者の方と一緒に作る事がある。		入居者の意見を取り入れ、献立作りを行っている。季節や行事を盛り込んだものを今後も考え提供していきたい。
			(外部評価) ホワイトボードに献立を記入されていた。職員は、利用者に料理の味付けについて意見を聞かれていた。		さらに、利用者個々の「その人らしい暮らし」を支えるために、食事支援についてグループホームのよさを活かした取り組みを工夫していかれてほしい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) イベントの時などはイベントに合わせて食前酒などお酒を飲める方には勧めたりもしている。おやつは食べ過ぎにならない程度自由に食べていただいている。管理できない方に関しては職員が管理している。		今後も出来るだけ、本人の希望に添えるよう支援していきたい。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 現在どんぐりでは、リハビリパンツ利用者のみで定期的にトイレ誘導に声掛けをしたり、尿汚染があれば即交換している。		今後も本人の自立性を高められるよう支援していきたい。



自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			準温泉の大浴場、個別浴、シャワー浴と本人の希望によって選択できるように入浴を支援している。		病状的な事も鑑みながら、出来る限り本人の意向に添えるように支援していきたい。
			(外部評価)		
			事業所のお風呂を希望される方は午前中に、隣接施設の大浴場を希望される方は午後に入浴されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			トイレ付きの個室で一人一人のスペースと自由があり、夜間でも安心して睡眠が出来るよう配慮している。		個々のペースを大切にしながら今後も支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			ホーム内でのレクリエーションなどの参加を呼びかけて楽しく過ごせるよう支援している。詩吟、陶芸、音楽療法など自由に参加している。出来上がった作品で作品展をしたり、他者と作品を評価し合ったりして入居者同士で交流を深め合ったりしている。		今後より楽しく生き甲斐のある生活を続けていけるよう、様々なレクリエーションを提供していきたい。
			(外部評価)		
			利用者は、大正琴を職員と練習されている。管理者は、大正琴の練習がリハビリになっていると話しておられた。又、俳句を新聞に投稿されている方や調査訪問時には、詩吟を謡って聞かせて下さった方もおられた。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			基本的には自由に所持してもらっているが、認知症が進んでいる方には置き忘れ、物盗られ妄想があるので出来るだけ少額を所持していただいている。買い物デーには買い物の楽しさ、お金の認識を自覚していただく為にもおやつ等の買い物、支払いは自分でするよう支援している。		今後も本人の判断能力に応じ、お金を使う機会を作っていきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			定期的な外出、お買い物日を設け、グループで外出している。天気の良い日などには近くの運動公園や季節の花を見にドライブに行く事がある。		スタッフも時間の合間を見計らい、柔軟に対応していきたい。
			(外部評価)		
			誕生日には、ご本人からの希望をかなえる取組みをされており、外出等を支援されている。お墓参りに出かけご自宅の草引きをされた方や、買物を希望される方もある。		さらに、ご本人、ご家族等とも相談しながら、利用者個々が希望に沿って日常的に外出し、楽しめるような支援もすすめていかれてはどうだろうか。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			誕生日外出を設けており、その方が行きたい場所や食べたいものなど希望を聞き、体調を考慮しながら外出する機会を設けている。		誕生日外出以外でも、家族の協力を得るなどして出来る限り本人が希望する外出が出来るように支援していきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			自室に電話を引く事が出来るように設備しており、各フロアに公衆電話を設置し、いつでも自由に電話連絡が出来るようになっている。また、手紙・郵便物は手作りポストをおいてあり、それに入れるとスタッフが投函するようにしている。		急ぎ電話に出れない利用者に対し、ホーム専用の携帯電話があり、それを活用している。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			ホーム内へは自由に出入り出来るようになっており、いつでも気軽に訪問していただけるようになっている。		訪問時間によっては、一緒に食事もしていただける様に声掛けをしている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)  定期的な法人内勉強会やカンファレンスにて周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		情勢に合わせた勉強会を今後も検討していきたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価)  定期的な法人内勉強会やカンファレンスにて周知し玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		今後認知症の状況が進んできた場合の対応方法について検討していきたい。
			(外部評価)  玄関には鍵をかけておられない。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価)  廊下に不必要な物や転倒時に危険な物を置かないように徹底すると共に、定期的な訪室や入居者との会話、状況把握をして安全に過ごしているか確認している。		今後も安全管理については、ハード面を含め定期的に確認し、職員間で気づいた点など話し合っている。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価)  夜間包丁など共有物の管理については、職員が行い。私物に関しては、家族との話し合いの元、個々のレベルに合わせて随時対応している。		今後も家族を含め対応方法を検討し話し合っていきたい。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価)  勉強会を通じ知識の向上に努め、専門職の意見など参考に利用者一人一人の状態に合わせ対応している。		今後も勉強会などの場を持っていきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価)  法人全体で定期的に救急訓練を行っており、万に一つの時には病院との連絡網もはっきりしている。		今後も各状況に応じ、スムーズな対応が出来るよう訓練を行っていく。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価)  法人全体で定期的に救急訓練を行っており、万に一つの時は病院等の連絡網もはっきりしている。定期的に避難訓練や防火訓練も行っている。  (外部評価)  法人全体で火災を想定して、利用者とともに避難訓練を実施された。夜間時を想定して行われた。		災害時には地域との連携が大切だと思われるので、今後地域との交流を深め、協力し合える関係を築いていきたい。  さらに、いざという時、すべての利用者が安全に避難できるよう、訓練や話し合いを重ねていかれることが期待される。又、地域の方達とも協力し合えるような体制作りをすすめていかれてほしい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価)  その方にあった環境整備をして安全に暮らせるような見守りを行っている。		今後も対応策に対しては随時話し合っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価)  毎日のバイタルチェック・訪室や対話にて体調管理を行っている。異変が合った場合は速やかに隣接の病院にて対応するようにしている。		今後も状況に合わせ、スムーズな医療サービス提供に努めていきたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人個人のファイルを作成している。職員はいつでも閲覧できるようにし、服薬の支援と症状の確認に努めている。		今後も、新規服薬が必要となった場合、薬の目的・副作用等についても、きちんと申し送りが出来るように努めたい。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防に効果のある献立を取り入れている。還元水や水分摂取を勧めたり、リハビリや散歩に誘い出来るだけ身体を動かす様支援している。		今後も食事面だけではなく、出来るだけ活動的に暮らす(散歩など誘い出し)ことで服薬に頼らない排便が行われるよう支援していきたい。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後や寝る前など、訪室した際に、個人的にチェックし口腔ケアの声掛けや介助などを随時おこなっている。		利用者一人一人の口腔状態が把握できるよう、歯科医の意見を取り入れながら、検討していきたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が同じテーブルについて、会話をしながらさりげなく声かけをしてバランスよく食べて頂けるよう支援している。食事のチェックを下膳する際に行っており、体調管理に役立っている。水分確保に、還元水の飲用をこまめに行っている。		より状態把握の為、具体的な栄養量・水分摂取量についてもアセスメントしてみたい。
			(外部評価) 居室に冷蔵庫が設置されており、食事時に食べきれなかった果物等を保管し、後で食べておられる方もいる。飲み物をお風呂上りにすすめる等、水分を確保できるよう取り組まれている。		時に、ご家族にもご本人の栄養摂取状況や食事のことについて報告し、意見を求めてみてはどうだろうか。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染予防マニュアルに基づいて対応し、感染症が発症しないように日々従事している。		今後も併設医療機関の支援の元対応していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日調理器具を消毒し、台所、調理器具の衛生管理を心がけている。食材の購入に当たっては新鮮な物の購入を心がけ、衛生面に保管できるように管理している。</p>		<p>今後も引き続き衛生管理に気をつけ対応していきたい。</p>
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関前には季節の花作りを、芝生に庭にはベンチもあり、気楽に出入りできるような工夫をしている。</p>		<p>玄関周囲に利用者の作品などを展示し、今後も気楽に出入りが出来るよう工夫していきたい。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ホーム内部や居室は民芸調の雰囲気気で自宅にいるような落ち着いた内装にしている。また、玄関には季節毎の飾り付けをして入居者の目を楽しませている。</p>		<p>今後も利用者の作られた俳句を飾ったり、食堂や居室に季節の花を飾ったり、出来るだけ心地よく過ごせるように支援していきたい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の作品を展示し、大きなスクリーンで映像を見ることができるようになっていた。</p>		<p>さらに、利用者が集う共用空間が、利用者の年代にとってくつろげる心地よい空間となっているかということについて、職員で話し合われてみてはどうか。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>廊下にソファを置いたりして気のあった同士でおしゃべりするコーナーを作っている。また、マッサージチェアも置いてあり、気楽に一人のんびりとくつろぎながらマッサージすることも出来る。</p>		<p>今後も利用者のペースで居間で過ごすことが出来るように検討していきたい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入居者の使い慣れた物、家具の写真、思い出のある品物などを配置して暮らしやすく工夫している。		今後も生活感が失われないよう注意しながら対応していきたい。
			(外部評価)		
			居室からベランダに出ることができ、洗濯物を干されたり外気に触れることができるようになっている。居室にテーブルを置かれている方もおり、他の利用者が訪ねて来られ、おしゃべりを楽しまれることもある。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			スタッフが訪室の度に換気、温度調整は配慮している。		今後も継続して対応していけるよう努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			建物内部はバリアフリーになっていて、手すりの設置により安全に自立した生活が送れるように工夫している。		利用者の状態に合わせて、歩行者・車椅子などの備品購入を随時対応していきたい。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			一人一人の出来ること出来ないことを職員が把握し、その人の能力に応じた作業に参加してもらっている。職員が温かく見守り、励ましたり応援したりしてその人が自立して暮らしていけるよう支援している。		今後も利用者の状態に合わせて支援していきたい。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			季節毎に玄関前のプランターの花作りをみんなで楽しんだり、自室のベランダでは各自の鉢植えを置いたりして楽しんでいる。		どんぐり外周に家庭菜園を設けたり、入居者と楽しみながら外に出かけれる機会を設けたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	常に入居者の方との会話を大切に考え、時間があれば訪室して会話をし一緒にすごしたりする時間を持ち、想いをくみとる取るようにしている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	レクリエーションの後やおやつ時間に、一緒にお茶を飲みながら団らんの時間を設けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事は規則正しく時間を決めているが、レクリエーション等は自由参加とし、入浴時間もなるべくその方の希望に添えるように心がけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が様々な場面で支援したり声掛けすると、明るい表情でお礼を言ってくださったり、様々な話をしてくださったり生き活きとした表情をされる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩程度であればその日の状況を見て支援しているが、買い物や友人の家、散髪などといった個人的な外出は家族の協力を得ることで可能ではあるが、利用者すべての希望に応じた対応する事は難しい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療機関が併設しており、いつでも対応出来るようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日中職員体制を手厚くしており、余程の事でなければ対応出来ている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	よく訪問してもらえ家族とは信頼関係も構築できているが、遠方の家族とは電話や手紙を通じ関係を構築するよう努めているが、十分とは言い難い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	併設している施設の通所サービス利用者がよく訪ねて来られているが、地域の中での通いの場にはなっているとはいえない。



項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) 1 大いに増えている ② 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	以前に比べ、運営推進会議に参加された地域の方が、地域のイベントへのお誘いや声掛けをしてくださったりされるようになってきている。
98 職員は、生き活きと働けている	(自己評価) ① 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間の関係もおおむね良好であり、相談し合える職員間の人間関係が出来てきており利用者へ接する際も、生き活きとした表情がみられる。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ① 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常生活の中で、以前に比べ利用者からの苦情も少なくなった様に思う。日常生活の中で笑顔もよく見られている。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ① 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の方とお話ししたり、運営推進会議でお話ししたりする限り、ほとんどの方が満足している様に思える。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・ どんぐりの経営主体が整形外科病院であるので、個人のレベルに合わせたりハビリができるようハビリにも取り組んでいる。また、隣接して病院があるため、日常生活の健康管理も十分にできており、急変時や特変時はすぐに対応できる環境にある。

・ レクリエーションには様々なレクリエーションを取り入れており、特に大正琴は個々に合わせて職員と一緒に練習しており、発表の場を設けることでやる気を引き出し今後への意欲にも繋がっており、最初は消極的だった方も楽しそうに練習されるようになったと思います。

・ ほかに、音楽療法を月2回設けており、音楽療法士の先生が来られ、一人一人のプログラムに合わせて楽しく歌ったり、お話しする時間を作っています。ほとんどの利用者の方が参加され、心と身体のリハビリを職員と一緒に楽しく取り組んでいます。

・ 外に出かける機会をなるべく多く持ちたいと考えており、本人が外へ行きたいと訴えた際や、天気の良い日や時間ができれば、どんぐり周辺を一緒に散歩に出かけたり、外のベンチでひなたぼっこをしたり、時間に余裕があれば市内をドライブしたりなど、気軽に外へ出かける環境作りを現在おこなっています。